

「国際平和と人権・人道法研究会」2021年度の活動報告③

「国際協力機関インターンへのプロセスと活動」学生座談会

藤 井 広 重

座談会参加者：福原玲於茄（博士前期課程1年）、横山友輝（博士前期課程1年）

アティラ・ナシル（4年）、榊原彩加（4年）

座談会聞き手：新井廉（3年）、ハギヤユカリ（2年）

概要

2021年12月17日に宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センター 国際平和と人権・人道法研究会は、「国際協力機関インターンへのプロセスと活動」と題した高校生および大学生を対象とした公開セミナーを開催し、国際協力機関でインターンを経験した藤井広重研究室に所属する4人の学生が自身の経験を共有した。セミナー終了後に約1時間、インターンの応募から準備、具体的な業務に至るまで2人の学生が4人に話を伺った座談会の内容は、以下のとおりである。

藤井

では公開セミナーに続いて座談会を始めます。自己紹介とインターン先の紹介をお願いします。

横山

学部4年時に日本紛争予防センター（現REALs）で6ヶ月インターンをした地域創生科学研究科1年横山友輝です。

福原

学部4年時にUNHCRと現在ICRCでインターンをしている地域創生科学研究科1年福原玲於茄です。

榊原

ACEにて現在インターン2ヶ月目の国際学部4年榊原彩加です。

アティラ

JICA横浜で、現在インターンをさせて頂いている国際学部4年アティラです。

新井

聞き手として参加します国際学部3年の新井廉です。アフリカの情勢や安全保障、平和構築に興味関心を持って、日々勉強しております。

ハギヤ

同じく国際学部2年のハギヤユカリと申します。私は、国際法とジェンダーや難民問題について興味を持っています。よろしくお願いいたします。

藤井

では、ざっくりばらんにこれまでのご経験をお話いただければと思います。まず新井さんから4人に聞いてみたいことはありますか。

新井

現在、私自身、国際協力機関でのインターンを考えています。合格までのプロセスを皆さんがどのように歩んできたのか、すごく気になっ

ています。何を頑張ったとか。また、皆さんが、インターン先にその機関を選んだ理由などを教えて頂ければと思います。

横山

僕は日本紛争予防センターでインターンをしていました。日本紛争予防センターは活動拠点が南スーダン、ケニヤ、シリア、トルコの大きく4箇所あります。僕自身、南スーダンのような、紛争国に貢献することが目標だったので、そこで活動している団体を基準として選びました。面接時にアピールしたのは藤井研究室で取り組んできた子どもの人権ワークショップで代表をしていたことで、大変好意的に受け止めてもらいました。

福原

プロセスについては、横山さんのように自分の関心に合っていた問題を扱っている国際機関だったということもありますが、それに加えて、宇都宮大学などで開催していたセミナーの講師の方々から実際にお話を伺えたのが、すごく自分の中では大きいかなと思っています。例えば、UNHCRから藤井ゼミの講演会で講師に来て頂いた方が、インターンの際に私のメンターを務めてくださったというめぐり合わせもありました。また、ICRCに関しても、藤井ゼミの講演会に職員の方が来てくださったことがきっかけで、すごく関心を持つようになりました。セミナーなどのつながりもすごく大事だと思います。

榊原

私は、インターンというのはいつでも募集しているわけじゃないので、自分がやれると思った時期にそのインターンがあったという一期一会的な部分もあると思います。私が特に、ACEが魅力的だなと思った点は、将来記者にな

りたいという夢の中では、海外の人権問題と日本の人権問題をどちらも扱えて、つなげられるような仕事をしたいと思っていたので、その面でACEは海外の事業にも取り組み、日本の労働問題も取り組んでいたのも、魅力的だなと思って応募しました。

アティラ

私に関しましては、JICAでのインターンを知ったきっかけは、藤井先生からの紹介です。私は、3年生まではほとんど授業やサークルを中心に取り組んできたので、キャリア形成においてインターンが役立つとか、インターンをやるとのこと自体、あまり知らなかったです。そんな時、先生がいつもいろんな情報を私たちに提供してくださるのですけれども、その中にJICAでのインターンも含まれていました。そこで興味を持って、応募してみたのですが、落ちてしまいました。そこから、私の実力はこんなものだと思い知って、いろんなことにチャレンジしてみました。そして1年後、もう一度同じインターンに応募してみた結果、受かることができました。JICA横浜では、海外移住資料館の事業に取り組んでおり、僕の興味関心は人権問題で、全く関係がないようにも思えますが、実は関係があります。昔の日本人が海外に移住した際に、いろんな人権侵害を受けたということも紹介しており、様々な人に知っていただけよう業務に携わっています。

新井

ありがとうございました。私自身、とりあえずインターンをやった方がいいのかなという気持ちがあり、全部に応募した方がいいのかなという気持ちがありましたが、やっぱり、皆さんの話を聞くと興味関心がないとモチベーションも上がりませんし、CVを書いているときも見抜かれてしまうのだなと思い、すごく参考にな

りました。

藤井

登壇者の4人は本当にいろんな機関で働いていますけれども、根っこは同じような感じがします。ハギヤさん、4人の話を聞きながらどんなことに特に関心を持ちましたか。

ハギヤ

きっかけは本当大切だと感じました。情報を集めることは非常に難しいということもありながら、情報がなければ動けないので、それらをどのように集められたのかに関心を持ちました。

横山

インターンに応募するうえですごく大切なポイントだと思います。Partnerというwebサイトだけではなく、本や記事を読んでいる中で、JCCPという団体名が出てきたり、UNHCRという国連機関が出てきたりするので、そこから情報を得るというのも大切なことだと思います。

福原

インターンを焦ってやる必要はそんなにないのかというのは正直感じました。ICRCに入った時に「君はインターンマニアなのか」みたいな感じで言われ、2回インターンをする人はそんなにいないと指摘されました。今思えば、焦って無理してたくさんのインターンをする必要はないというのはまず始めに言いたいです。その上で、インターンやりたいと思われるのであれば、是非お勧めはしたいと思っています。情報収集については、横山さんがおっしゃる通りだと思います。狭い世界だと思いますので、使える情報は大いに活用しましょう。

榊原

私は、ACE自体は藤井先生からご紹介頂きましたが、横山さんがおっしゃった通り、Partnerに大体は載っているのかなと思います。もう一つ、私からすると、先輩方が先駆者的な形で、インターンに行って初めて「その機関がインターンを募集している」というのを知りました。自分が憧れている人のキャリアを調べたり、講演会とかで聞いてみたりして、そこから探すことも良いかと思います。

新井

インターンでの業務について、やはり国際協力機関のインターンでは、英語が求められると思います。どのぐらいの英語力が求められたのか、また、実際インターンでの業務で英語をどれくらい使ったのかなど教えて頂ければ幸いです。

榊原

私のIELTSのスコアは6でした。英語力は必要ですが、その英語力でどれくらい何ができるのかっていうのを示せばいいのかなって思うのが1つ。あと、私は広報で、必要に駆られて英語を使うという機会はありませんが、例えばYouTube企画に携わって資料を集める時に、日本語だと情報が全く足りないのので、英語を読んで情報を集めます。英語力はあったほうが、業務の中でできることや、自分のポテンシャルを示せるのかなと思っています。

福原

第一プロセスとして、IELTS何点、TOEIC何点とかが一番自分の英語力を示すわかりやすい数値なので、最初に取得しておくことはすごい強みだと思います。ですが、問題は実務をするときにどういう英語が求められるのかによるのかなと思いました。例えば、UNHCRで言え

ば、法的な単語の使い回しとか、MayとCanの違いを理解したほうがいいのか。そういう意味での英語の使い方、英語のスキルっていうのは重要なと思いましたし、ICRCにおいても緊急人道支援とかの文脈で使われる英語の単語とかを把握しておくことが重要なと思います。

横山

もちろん英語のスキルがすごく大切でありながら、もちろんそれじゃないところでカバーをできるのも事実。他方で、英語ができないから、職員さんに迷惑をかけてしまうことがあるのも事実。つまり英語はできたほうが良い。その上で、今、福原さんからポストに合わせた英語、ポスト特有の英語の知識があったらさらに良いってことがまさにその通りで、知らないことを隠さないことも大切なかなと、6ヶ月間インターンをしていて思いました。英語ができないではなくて、例えば「この英語はなぜこの単語なんですか」とか、シンプルに英語の意味がわからなければ、「これってどういう意味なんですか」って聞いてもいいと思うし、とにかく隠さないで、見栄を張らずにできないことはできないと言うことも、大切なことなのかなと思います。

新井

第3言語をインターンで求められることはありますか。国連の公用言語は6カ国語あり、今後国際協力でのキャリアを考えていくには必要になると思いますが、みなさんがインターンを経験されて、他言語について感じたことがあればお聞きしたいです。

福原

第3言語を学びたいなっていうのはすごく感じました。例えば、UNHCRでいえば、庇護申請者から電話かかってきたときにフランス語が

話せるとか、アラビア語が話せるインターンっていうのはすごく重宝されるので、そこで話せたらもっといいなっていうのもあります。ICRCで働いていても、本部がジュネーブにあるので、フランス語での会話が多いです。例えばDRCの状況を見るのなら、フランス語しかないなんてことはざらにありますので、余裕があれば第3言語をやった方がいいのではないかと強く感じております。インターンの同期はアラビア語を話せたので、庇護申請者の対応なんかは、言語的にすごくアドバンテージがあったのではないかと思います。

藤井

ハギヤさんは、応募する際にこれが心配だということはあるですか。

ハギヤ

他のスキル、人間関係とか、コミュニケーションの部分はどういう風に求められているのか、また知識もどのくらい必要なのかすごく心配です。

横山

はい、ありがとうございます。例えば、僕がインターンしていたNGOでは、事業を行うにはどういう資料を提出しなきゃいけないとかっていう、そういう知識は勿論求められなかったです。でも、例えばコミュニケーションの面で、チームで1つのことを行っていくのだから、さっきも言ったとおり、できないことはできないと報告すること、それからこんな不都合が起きたと連絡すること、どうやったらいいかわからない時に相談する、この「ほうれんそう」が、とにかく大事ななということを痛感しました。これはコミュニケーションにおいて必要なスキルだなと思います。

福原

仰る通りで、「ほうれんそう」は大事にしたほうがいいと思います。メンターはどこのインターンでもいらっしゃると思いますが、メンターさんも然り、チームの一員を担っているという意識を持って、あんまり疎外感とか感じずに、コミュニケーションをはかったら良いと思います。共有できることがあるとすれば、チームに入った後に、UNHCRやICRCではトレーニングコースをやらなければいけないのですが、そのコースの中でも、多様性の中でいかに協調して仕事をしていくかっていうトレーニングコースももちろんありますし、そういう人材が求められているんだろうと思います。

榎原

お二方の言うように、「ほうれんそう」は大事です。特に私は、お会いすることができないので、ネットでofficeのteamsとかで連絡を取りますが、逐一、「今日出勤しました」、「何かやることありますか」、「〇〇やってください」、「できました」、「ここちょっと不安です」みたいな連絡をします。多分言いすぎてことはなと思うので、とにかく報告しています。「こういう資料を作ってみたんですけど、ご確認お願いします」みたいな感じで、やっていることをアピールしつつ、報告をしています。専門知識については、さっきトレーニングがあると仰っていたんですけど、私も1ヶ月間、本当にオリエンテーションしかなくて。そこでACEとして何が大切なのかとか、特にACEは子どもの権利について取り組んでいるので、そのために何をしてはいけないか、も教えられて、ちゃんと誓約書も書いて提出してっていう流れがあるので、そこは心配しなくても、入ってから学んでもいいと思います。

アティラ

コミュニケーションは、絶対大事だと思っています。そのうえで、プラスアルファの技術って何かしら持っていなきゃいけないと感じました。僕のことではないのですが、同期のインターン生で、ものすごくofficeソフトの使い方が上手い人がいるんですよ。何かプロジェクトやりたいとか、これがやりたいか思いついた時、企画書を作成します。企画書はもちろん、ワードだけでなくエクセルとかパワポで作りますが、いかにその企画書を魅力的に見せるかで、それができるかできないかが決まってくるので、単に中身がどんなに良くても、それを悪い見せ方にしちゃうとできないことがあります。その点、同期の彼女はものすごく上手で。もう本当に見やすくて読みやすくて、どこでそんな技術学んだんだっていうぐらい。なので、そこは大学の授業に頼るのではなくて、自分でももっと、そういうパソコンの知識を取り入れる必要があるなと思いました。

藤井

アティラさんが仰っていること、よく分かります。私も国連でのインターン時に、翻訳がインターン生の中で一番得意だったので、ずっと翻訳の仕事を任されていました。一つ、得意なことがあると、仕事の幅が広がり、信頼も得やすいと思います。

新井

インターン後のキャリアについて、よく民間企業のインターンとかだと、自分の志望しない業界とか企業に、インターンを行っても意味がないなどと聞いたことがあります。国際協力機関の場合は、皆さんどう思われますか。

ハギヤ

私からは、いい意味でも悪い意味でも、自分

がインターンシップに期待していて、事実と異なっていたことがあったら教えていただきたいです。

横山

一点目のご質問には、おそらく一般企業で行われているインターンと国際協力機関でのインターンは、そもそも性質が違うのかと。意味がないなんていう事は一切なくて、今アティラさんがおっしゃったように、officeの力も求められますし、コミュニケーション能力も求められますし、国際協力的な知識以外で求められることがすごく多いので、どこにいても通用する経験を得ることができます。仕事を6ヶ月間する上で、そんなにいろんな力が求められると思っていなかったですし、そういう能力を身に付けられる機会を頂けるのも思っていなかったもので、入る前に期待していたものよりも、実用的な能力を身につけさせて頂く機会になりました。

福原

自分の中では、国際機関で働くことしか考えていなくて、インターンに応募したモチベーションも、これを機に自分のキャリアを築いていきたいという思いでずっとやってきたので、質問の意図に添えているか分かりませんが、自分の成長につながったと思います。スキルの向上とか、すごくいい意味でインターンから得られるものがたくさんありました。悪い意味で、良くなかったなって思うのは、スタッフさんからしたら、たかがインターンですよ。公式のスタッフでもないのに、自分の中でUNHCRとかICRCとか、すごい機関に所属しているということに、変にうぬぼれてしまうって、良くなかったなと思いました。特にUNHCRでは、夢だったということもあって、人に言いふらしたいとか、そういう気持ちも本

当に無くはなかった。そういうのは良くないから、謙虚に頑張るっていうのはちゃんと事前に持った上で、ひたむきに業務に取り組むっていう姿勢は重要です。

榊原

新井さんの質問に関しては、ACE自体、インターンからの採用はしていないので、国際協力機関でインターンしたから国際協力で働くことにすぐにつながるわけではないかと。ただ、今年の春に就活をして、その時に思ったことは、やっぱりどこに行っても「大学の時に頑張ったことは何ですか」や「特技は何ですか」というのを聞かれます。実際、インターンとして参加しないとできないこともあって、例えば、動画を作るにしてもサークルとして作成するものと実際に活動しているNGOとして発表する動画だと全然違ってくると思います。そういう中で企画から携わらせて頂けるのを経験したというのが普通の会社に入る時にいい経験になると思います。特に私の場合は記者を目指しているので「こういう企画を求めてやりました」と言えるのは一つの財産です。

ハギヤさんの質問について、良かった点は、ACEではインターン生も仕事結構あるので、「じゃあ構成考えてきて」みたいに、仕事を与えてもらえるのが、個人的には良かったなと思う点です。

アティラ

国際協力機関で働くことが私の夢ですが、サイトで募集要項を見ているとやはり実務経験が最低5年以上や10年以上っていうのがあります。ですけど、その一步が大事だと思います。国際機関で働くには入口を見つける必要があると思います。例えばJPO制度などありますが、経験がないと応募できないというのを職員さんからのインタビューで聞きました。そう考える

と入口が見つけづらいですね。そういった時に役立つのがインターンだと私は強く感じました。インターンで働いてみてどういう組織なのか、もちろん正職員ではないので深くは分かるわけではないのですが、入り口にはなると思います。それをきっかけにいつか私の夢である国際機関で働くことに繋がればと思って働いています。

ハギヤさんの質問について、中に入ってみて、JICAはものすごい予算がある機関ということがわかりました。お金の流れを掴むことで、実はいろんな NGO や国際機関、企業も関わっているのだと学ぶことができ、業界への知識が深まったと思います。

藤井

4人ともありがとうございました。是非、これからも国際協力に限らず、様々な分野でご活躍下さい。今日はありがとうございました。



宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センター・連続セミナー
国際協力機関インターンへのプロセスと活動
 ~A way to start a career: Internships at international organizations~

セミナーの概要

本公開セミナーでは、様々な国際協力機関にてインターンを経験した4名の宇都大生が、インターン採用に至るまでのプロセスと、これまでの活動をざっくりと紹介し、国際協力の分野で働くことに少しでも興味・関心がある高校生・大学生の皆さん、ぜひご参加下さい。

開催日時

12月17日(金) 17:00~18:15

※無料 一般公開 オンライン開催 (zoom)

司会

新井 康 (宇都宮大学国際学部3年)

萩谷 ゆかり (宇都宮大学国際学部2年)

登壇者紹介



左から2番目

氏名 **福原 玲於菰**

所属 **宇都宮大学大学院1年**

地域創生科学研究科社会デザイン科学専攻
グローバル・エリアスタディーズプログラム

インターン先

- ・国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR) 法務部
- ・赤十字国際委員会 (ICRC) コミュニケーション部



参加者へのコメント

「将来は、国際協力の分野で働いてみたいけど...今何をしたらいいんだろう。」
 こんな悩みを持っている方も多いことと思います。私も同じ悩みを持つ一人であり、これまでに沢山の挑戦と失敗をしました。今回は、私がこれまで経験した学内での活動や、UNHCR、ICRCでのインターンについて共有し、聴講者の皆様と夢を共有しあえる機会になればと思っています。



氏名 **横山 友輝**

所属 **宇都宮大学大学院1年**

地域創生科学研究科社会デザイン科学専攻
グローバル・エリアスタディーズプログラム

インターン先

- ・認定NPO法人日本紛争予防センター (現: Reach Alternatives) 南スーダン事業部 ケニア事業部



参加者へのコメント

私たち学生の周りには、学生生活に楽しさや挑戦を与えてくれる「きっかけ」がたくさんあります。今回は、私に挑戦の場を与えてくれた、紛争予防に携わる国際NGOでのインターンの経験を共有させていただきます。大学生活で「特にやりたいことがない」、「何をしていいかわからない」という皆さんの参加も大歓迎です！紛争や人権という言葉を手掛かりに、少しでも皆さんの思い出深い大学生活のための「きっかけ」作りの場になればと思っています。



氏名 **アティラ・ナシル**

所属 **宇都宮大学国際学部
国際学科4年**

インターン先

- ・独立行政法人国際協力機構 (JICA) 横浜センター



参加者へのコメント

JICA横浜ではインターン生のやりたいことが尊重されます。日系社会や多文化共生社会の理解促進に向けて、どのような活動をしているのか紹介させていただきます。

また、本インターンへは一度、不採用となった経験がございます。失敗を糧に、挫けずチャレンジし続ける大切さを皆様に伝えられたら幸いです。



氏名 **榎原 彩加**

所属 **宇都宮大学国際学部
国際学科4年**

インターン先

- ・ACE(エース) 啓発担当



参加者へのコメント

ACEは、ガーナやインドの児童労働撲滅に向けて取り組んでいる団体です。また、国内向けには子どもの権利に関する意識向上のためにアドボカシー活動などを行っています。私はまだインターンを始めて日が浅くACEの活動について学んでいる段階ですが、これまでの生活や大学で学んできたことを土台に日々新たな気づきがあり、楽しいです。

今回の講演会では、今感じている新鮮な気持ちを皆さんに共有したいと思っています。

申し込みフォーム:

<https://forms.gle/YY2wCeBZW9APjpwc6>

*開催にあたって、「国際学部教育研究プロジェクト支援経費」および2021年度宇都宮大学SDGs推進奨励賞【子どもの権利を通した「平和」・「公正」の達成に向けて(藤井研究室受賞)】からご支援いただきました。

主催: 宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センター国際平和と人権・人道法研究会
 お問い合わせ先: 藤井広重 准教授 (fujiih@cc.utsunomiya-u.ac.jp)

申し込みフォーム QRコード

